

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

鳥取県

学校名

米子市立湊山中学校

人権課題

子供

対象学年・
取り扱った教科等

全学年 学級活動

時数等

2

目標・人権教育のねらい

人権尊重の視点に立った共感的人間関係づくりを基本とし、みんなの願いを知りお互いに尊重し合って、誰にとっても安心・安全な学級づくりをする意欲を養う。

実施した内容

- ・映像資料の視聴（「涙と笑いのハッピークラス」「拓の挑戦」）
- ・それぞれの思いを語り合い、互いに理解を深める。
- ・個人目標、学級目標づくりにつなげるための願いを共有する。

工夫した点

（指導上の工夫）

- ・視聴する動画を自分たちの生活と重ね合わせて共感できるものとし、自分事として捉え、自分たちの目指すクラス像を考えられるよう工夫した。
- ・ひとりひとりの願いや「こんな学級にしたい」という思いを共有することにより、誰もが安心して過ごせる教室とはどのような教室かを考え目標を設定するような流れにした。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

道徳科において、「より良い学校生活、集団生活の充実」についての題材を扱って学習した。

事業成果

◎自校アンケートによる「最も肯定的な回答（よく知っている、よくしている・できる等）」の結果（対象学年全体に占める割合）

【知識的側面】「命の尊さやお互いの人権を尊重し合うことの大切さを理解している。」

事業開始時 70.6% → 事業終了間際 77.0%

○お互いの思いや願いを尊重することの大切さを理解している記述が多く見られた。

【技能的側面】「学校生活での問題や課題を見つけたり、それを仲間と協力して少しでもよくしようとするには、進んで参加できる。」

事業開始時 42.2% → 事業終了間際 51.1%

○よりよい学級をつくるために、仲間と協力してさまざまな活動に取り組もうとしたり、自分自身がどのようにかかると具体的な記述をしたりすることが増えた。

【価値・態度的側面】「相手の個性や良さを認めたり、自分の思いと同じように相手の考えや希望も考えて行動しようとしている。」

肯定的回答全体 事業開始時 95.7% → 事業終了間際 97.1%

○自分や他人の個性やよさを認め、友達と接していこうとする姿が見られるようになった。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

鳥取県

学校名

米子市立湊山中学校

人権課題

障害者

対象学年・
取り扱った教科等

1年生 学級活動

時数等

2

目標・人権教育のねらい

- ・聴覚障がいについて理解を深め、偏った見方や考え方で接しないことの大切さを感じ取る。
- ・障がいがある人が抱える問題に目を向け、誰もが安心して生活できる社会をつくろうとする意欲を育てる。

実施した内容

- ・手話普及支援員による講演・手話体験の実施
- ・ふりかえりを通して、「誰もが安心して生活できる社会をつくるために自分にできること」を考えた。

工夫した点

- ・手話普及支援員の方々に複数来ていただき、クラスで小グループに分かれ、全員が体験を行えるようにした。
- ・実際に生活の中で使えるよう、あいさつや自己紹介を中心に指導してもらい、それぞれが自分の紹介ができるようにした。

令和 5 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

道徳科において、差別や偏見のない社会を実現していこうとする実践意欲と態度を育てるための題材を扱って学習をした。

事業成果

- ◎自校アンケートによる「最も肯定的な回答（よく知っている、よくしている・できる等）」の結果（対象学年全体に占める割合）
- 【知識的側面】「命の尊さやお互いの人権を尊重し合うことの大切さを理解している。」
事業開始時 96.4% → 事業終了間際 98.1%
- 【技能的側面】「他の人の気持ちを考えたり、意見に耳をかたむけたり、逆に自分の考えを相手に伝えたりできる。」
肯定的回答全体 事業開始時 88.2% → 事業終了間際 92.2%
- 【価値・態度的側面】「多くの人との出会いを大切にし、そこからいろいろな生き方を学んで、それを自分の生き方に活かそうとしている。」
事業開始時 44.5% → 事業終了間際 50.5%
- ◎手話をはじめとした、聴覚障がいを持つ人とのコミュニケーション方法について理解することができた。また、事後のふりかえりに、積極的に障がいがある人とのコミュニケーションをとっていきたいと記述する生徒が多くなった。
- ◎手話学習後においても教わったことを継続しようと、授業のはじめと終わりのあいさつに手話を用いるクラスもある。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

鳥取県

学校名

米子市立湊山中学校

人権課題

同和問題

対象学年・
取り扱った教科等全学年 学級活動
3年生 学級活動

時数等

1,2年生 2
3年生 4

目標・人権教育のねらい

- ・就職に関する部落差別の問題を通して、部落差別を自分の問題として捉えさせ、差別を解消していこうとする意欲を養う。
- ・結婚に関する部落差別の問題を通して、「みんなが幸せに生きる」社会の実現のために自分たちに何ができるか考える。

実施した内容

- ・結婚差別の実態とそれに立ち向かってきた方のお話を聞くことから、「みんなが幸せに生きる」社会にするために、自分がどう行動するべきか考えた。（全校 各学年2時間）
- ・統一応募用紙に学ぶ、差別の実態や就職に対する学習を通して、部落差別をはじめとするあらゆる差別を自分の問題として考えさせ、差別解消のために自分に何ができるのかを考えた。
- ・資料を使って考えることを通して、結婚差別を自身の問題と捉え自分がどのような行動をするかを考えた。

工夫した点

- ・7年前より、同じ講師の方に来ていただき、成長段階に合わせて学年ごとに話を聞かせてもらうことで、学年に応じた学びができるようにした。
- ・社用紙と統一応募用紙を比較することで、人権保護の観点が広まっていることの実感につながった。
- ・出自や宗教、親の職業などが採用基準として不適切となる理由を考えることを通して、差別の不合理に気づかせ、差別をなくすために行動することの大切さを感じ取れるようにした。
- ・結婚差別に直面した筆者に共感しながら対峙する立場で考えることで、相手を受け入れ、ともに考えることの大切さを感じることに迫った。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

道徳科において、差別や偏見のない社会を築くために大切な心について考え、社会正義に基づいた行動を考える学習を行った。
社会科において、同和対策審議会答申、部落差別解消推進法について学習した。

事業成果

◎自校アンケートによる「最も肯定的な回答（よく知っている、よくしている・できる等）」の結果（対象学年全体に占める割合）

【知識的側面】「さまざまな差別や偏見と闘ってきた人たちの生き方を学ぶ中で、社会は人権尊重の世の中に変化していることを理解している。」

事業開始時 50.5% → 事業終了間際 68.0%

○人権侵害の歴史や現状に対しての正しい知識を得たと感じられる記述が見られた。また、不合理な差別に対して、それを認めない社会へと変わってきていることを理解している記述が増えた。

【技能的側面】「差別的な態度を受けたり、一部の人たちが言った本当かどうか分からない噂や陰口などを聞いたとき、おかしいことを指摘できる。」

事業開始時 25.7% → 事業終了間際 31.1%

○自分の意見や考えを伝えることができる生徒が増えた。

【価値・態度的側面】「今も残っているさまざまな人権問題に関心を持ち、解決しようとしている。」

事業開始時 35.2% → 事業終了間際 42.7%

○ふりかえり等に、他者の人権を大切にしようとする記述が多く見られるようになった。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

鳥取県

学校名

米子市立湊山中学校

人権課題

外国人

対象学年・
取り扱った教科等

2年生 学級活動

時数等

2

目標・人権教育のねらい

多文化共生社会の実現に関心を持たせ、文化や考え方が異なる人たちが共に暮らす社会において、他者を尊重し、理解する気持ちを大切に行動しようとする態度を身に付けさせる。

実施した内容

- ・コミュニケーション・ギャップの体験から、さまざまな文化や考え方があることに気づかせるとともに、違いを受け入れ認めようとする意識を育てる。（1時間）
- ・価値観の違いが文化の対立を引き起こし社会問題などに発展する可能性があることに気づき、お互いの多様な考えを尊重しながら建設的に話し合い、よりよい社会を目指そうとする態度を身につけさせる。（1時間）

工夫した点

- ・ロールプレイにより、それぞれの立場に共感して考えることで、問題をより身近に考えられるように工夫をした。
- ・話し合いの場面で、お互いにとってよりよいものになるよう考えることを確認し、合意形成を促した。
- ・ダイヤモンドランキングを使い、また、それぞれの内容をカードにして見やすくすることで考えを共有しやすくした。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

社会科において、日系ブラジル人の在住に関する学習を行った。
道徳科において、互いに尊重し合い、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に貢献しようとする意欲を養うための資料を扱って学習した。

事業成果

◎自校アンケートによる「最も肯定的な回答（よく知っている、よくしている・できる等）」の結果（対象学年全体に占める割合）

【知識的側面】「命の尊さやお互いの人権を尊重し合うことの大切さを理解している。」

肯定的回答全体 事業開始時 96.9% → 事業終了間際 100.0%

○多様性を理解する必要があることや、お互いの思いや願いを尊重することの大切さを理解している記述が多く見られた。

【技能的側面】「お互いの気持ちをわかり合ったり、ものごとをまとめたりする話し合いには、ルールやマナーを守って参加できる。」

事業開始時 52.1% → 事業終了間際 59.8%

○違いを受け入れ、納得してみんなにとってよりよい答え（解決）を見つけ出すことができるようになってきている。

【価値・態度的側面】「相手の個性や良さを認めたり、自分の思いと同じように相手の考えや希望も考えて行動しようとしている。」

事業開始時 53.1% → 事業終了間際 58.8%

○ふりかえりやアンケートに、多様性を認め合いながら、よりよい学級・学校をつくっていかうとする記述が増えた。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

鳥取県

学校名

米子市立湊山中学校

人権課題

インターネットによる
人権侵害対象学年・
取り扱った教科等

1年生 学級活動

時数等

2

目標・人権教育のねらい

- ・差別や偏見、不合理なことに出会ったときの対処法について理解するとともに、差別解消の方法について、適切な方法を見だし、表現する力を養う。
- ・さまざまな人権課題について自分の課題として解決しようとする態度を育てる。

実施した内容

- ・ネット上の部落差別を考えていく前段として、部落差別の歴史と、それを解消するための取り組みを知る。（1時間）
- ・人権課題を解決していくために、自分に何ができるか考える。（1時間）

工夫した点

- ・日常生活との違いに注目させることで、インターネットの特性（匿名性、取り消せない、責任を感じにくい、相手の顔が見えないなど）に気づかせるようにした。
- ・正しい行動を選択していくために、対処法によってどんな結果になるのかも併せて考えさせるようにした。

令和 5 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

社会科において、中世のケガレ意識や江戸時代の身分制度から、差別意識の起こりを学んだ。
技術科において、メディアリテラシー、情報モラルについて学習した。
学級活動において、情報モラルについて学んだ。

事業成果

- ◎自校アンケートによる「最も肯定的な回答（よく知っている、よくしている・できる等）」の結果（対象学年全体に占める割合）
- 【知識的側面】「個人情報で保護されるべきこと、パソコンや携帯電話などでメールや掲示板等SNSを利用するときに守るべきルールのことを知っている。」
事業開始時 34.5% → 事業終了間際 38.8%
- 【技能的側面】「さまざまな情報の中から、それは信頼できるものか、流すべきではないものかなど、自分で判断し、あつかうことができる。」
肯定的回答全体 事業開始時 91.8% → 事業終了間際 96.1%
- 【技能的側面】「差別的な態度を受けたり、一部の人たちが言った本当かどうかわからない噂や陰口などを聞いたとき、おかしいことを指摘できる。」
事業開始時 18.2% → 事業終了間際 18.4%
- 情報モラルの視点からの技能は身につけてきているが、自分の考えを伝えたり、間違いを指摘したりすることに関しては、思春期に入って人間関係が変わってきていることが関連していると考えられる。
- 【価値・態度的側面】「個人情報のあつかいには気をつけ、情報モラルを守ってパソコンや携帯電話などSNSを利用するようにしている。」
肯定的回答全体 事業開始時 91.8% → 事業終了間際 93.2%

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

鳥取県

学校名

米子市立湊山中学校

人権課題

性的指向・性自認

対象学年・
取り扱った教科等

2年生 学級活動

時数等

2

目標・人権教育のねらい

- ・多様な性について考えることを通して、だれもが過ごしやすい環境をつくるためにはどうしたらよいか考え実践しようとする意欲を養う。
- ・多様性を理解し、自他の人権を尊重しだれもが幸せに生きることができる社会をつくるために主体的に行動しようとする態度を育てる。

実施した内容

- ・性の多様性を考えることから、誰もが過ごしやすい環境をつくるために大切なことを考える。(1時間)
- ・誰もが幸せに生きる社会をつくるために、自分にできることを考える。(1時間)

工夫した点

- ・普段の自分のものの見方や考え方を振り返り、学習につなげていくためのアンケートを実施し、学習への意識付けをするように工夫した。
- ・当事者の困り感を考え、それに共感させることから、自分たちの周りにも居づらさや困難さを感じている人がいるかもしれないことに気づかせ、自分事として捉えさせる工夫をした。

令和 5 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との 関連

道徳科において、多様性の理解をすすめる資料を扱って学習した。

事業成果

◎自校アンケートによる「最も肯定的な回答（よく知っている、よくしている・できる等）」の結果（対象学年全体に占める割合）

【知識的側面】「命の尊さやお互いの人権を尊重し合うことの大切さを理解している。」

肯定的回答全体 事業開始時 96.9% → 事業終了間際 100.0%

○性の多様性をはじめとし、学級内でも多様性を理解・尊重していくことの大切さを理解している記述が多く見られた。

【技能的側面】「差別的な態度を受けたり、一部の人たちが言った本当かどうかわからない噂や陰口などを聞いたとき、おかしいことを指摘できる。」

事業開始時 16.7% → 事業終了間際 27.8%

○行動化へととなかなかつながらないながらも、継続したアウトプットの取り組みにより数値が上昇してきていると考えられる。

【価値・態度的側面】「相手の個性や良さを認めたり、自分の思いと同じように相手の考えや希望も考えて行動しようとしている。」

事業開始時 53.1% → 事業終了間際 58.8%

○自分の身近に困り感や居づらさを感じている友達がいるかもしれないという視点からものごとを考えていこうとする様子が見られるようになった。

令和5年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

都道府県・
指定都市名

鳥取県

学校名

米子市立湊山中学校

人権課題

SDGs

対象学年・
取り扱った教科等1年生 総合的な学
習の時間

時数等

6

目標・人権教育のねらい

- ・SDGsの視点から、地域における現状や課題について情報を収集し、正しく理解する。
- ・調べたことやまとめたことを整理・分析し、自分の考えを効果的に伝える力を身につける。
- ・地域の企業や事業所の取り組みを調べることを通して、地域と自分との関わりや、自らができる取り組みについて考え、課題解決に向け主体的に取り組む態度を育成する。

実施した内容

- ・地域の現状や課題について、SDGsの視点から調べ学習をする。（1時間）
- ・地域企業や事業所へ出向き、SDGsの取り組みについてインタビューをする。（2時間）
- ・調べ学習やインタビューで得たことや、実際に自分たちが回収したゴミについてまとめ、発表する。（3時間）

工夫した点

- ・企業が行っているSDGsの取り組みを参考にして、今の自分たちにできる取り組みを考えさせ発表を行った。

令和 5 年度 人権教育研究推進事業 <人権教育研究指定校事業>

他教科との
関連

道徳科において、自ら積極的に社会とかかわることの大切さを考え、社会参画意識の向上を図った。

事業成果

◎自校アンケートによる「最も肯定的な回答（よく知っている、よくしている・できる等）」の結果（対象学年全体に占める割合）

【知識的側面】「命の尊さやお互いの人権を尊重し合うことの大切さを理解している。」
肯定的回答全体 事業開始時 96.4% → 事業終了間際 98.1%

【技能的側面】「他の人の生き方から、すばらしいところを見つけたり、それを自分の生き方の反省にいかすことができる。」
事業開始時 40.9% → 事業終了間際 41.7%

【技能的側面】「他の人の気持ちを考えたり、意見に耳をかたむけたり、逆に自分の考えを相手に伝えたりできる。」
事業開始時 40.0% → 事業終了間際 42.7%

○「わかりやすく相手に伝える」という力が身につけてきている。

【価値・態度的側面】「他の人の生き方から、すばらしいところを見つけたり、それを自分の生き方の反省にいかすことができる。」
事業開始時 44.5% → 事業終了間際 50.5%

○他者の良い取り組みを参考にして、自身の取り組みをよりよくしていこうとする様子が見られるようになった。